

平成21年(2009年)12月期決算

2010年2月10日

おいしさを笑顔に

KIRIN

キリンホールディングス株式会社

◆2009年 決算概況

- 総括(連結)
- セグメント別実績
- セグメント・事業会社 ハイライト

◆2010年 業績予想

- 業績予想(連結)
- セグメント別 業績予想
- セグメント・事業各社 取り組みサマリー

◆参考資料

- 海外各社 ・ライオンネイサン ナショナルフーズ ・サンミゲル
- 医薬事業パイプライン
- グループ組織図
- のれん等償却一覧
- 各社連結期間一覧
- 為替状況

◆決算短信補足資料(抜粋)

2009年 決算概況

2009年決算 総括(連結)

- ・厳しい環境の下、経常利益過去最高(1,446億円、対前年40.3%増)を達成。売上高はほぼ前年並み
- ・麒麟ビール・豪州事業が大きく貢献し、為替・会計基準変更の影響を除けば実質営業増益

(億円)		2008年度 実績	2009年度 実績	前年比 (%)		修正計画 (09年3Q時)	対計画増減
売上高(酒税込み)		23,035	22,784	▲251	▲1.1	23,000	▲216
営業利益	のれん等償却前	※	1,577	※	※	※	※
	のれん等償却後	1,459	1,284	▲175	▲12.0	1,300	▲16
経常利益		1,030	1,446	+415	+40.3	1,430	+16
当期純利益		801	491	▲310	▲38.7	450	+41
営業利益率 (酒税抜き) (%)	のれん等償却前	※	8.2	※	※	※	※
	のれん等償却後	7.6	6.7	▲0.9	—	※	※
EBITDA		2,646	2,128	▲518	▲19.6	2,238	▲110
ROE(のれん等償却前)(%)		※	8.3	※	※	※	※

- 売上高 : 国内酒類の健闘、医薬の好調によりほぼ計画並みだが、為替の影響等により減収
- 営業利益 : 為替・会計制度変更の影響を受けるも、国内酒類・医薬・豪州が実質増益
- 経常利益 : 事業好調に加え、豪ドルレート変動による為替差益等により過去最高益
- 当期純利益 : 資産流動化進展の一方、08年持分変動利益反動・KB生産拠点再編に伴う減損等により減益

2009年度決算 セグメント別実績

(+) 酒類:減収減益 (−) ●キリンビール販売好調 ●ライオンネイサンの事業好調 ●会計制度の変更 ●豪州の為替影響	(+) 飲料・食品:増収増益 (−) ●豪州の生乳価格安定およびDF社統合効果 ●KBCのコスト構造改革による収益力向上 ●国内競争環境の悪化 ●豪州の為替影響 ●KBC海外事業の苦戦
(+) 医薬:増収増益 (−) ●協和発酵キリンの年間連結(第1四半期) ●国内主力製品の伸長 ●花粉飛散による抗アレルギー剤の好調 ●2008年に計上したライセンス契約一時金収入分の減少 ●為替影響による輸出等のマイナス	(+) その他:増収減益 (−) ●協和発酵キリン・協和発酵バイオの連結(第1四半期) ●化学品10-12月の黒字化 ●バイオケミカル:ヘルスケア製品伸長 ●世界的な景気後退による需要減、市況悪化により化学品事業が減退(特に上半期) ●バイオケミカルでの為替影響・ビタミン類の市況悪化

(億円)	売上高			営業利益(のれん等償却後)		
	2008	2009	対前年(%)	2008	2009	対前年(%)
酒類	11,815	10,976	▲7.1	1,099	1,028	▲6.5
飲料・食品	7,166	7,350	+2.6	64	70	+10.4
医薬	1,715	2,067	+20.5	282	343	+21.8
その他	2,338	2,389	+2.2	182	38	▲78.9
消去又は全社	—	—	—	▲169	▲196	—
合計	23,035	22,784	▲1.1	1,459	1,284	▲12.0

2009年度 セグメント・事業各社ハイライト

酒 類

●キリンビール



■ ビ・発・新で業界平均上回る販売達成 ⇒ お客様から高い支持獲得

「新・一番搾り」好調
業界平均を上回る対前年100%
【ビール】



「淡麗」シリーズ好調
初めてシェア6割超 ※
【発泡酒】



「のどごしく生」過去最高年間販売実績達成
5年連続売り上げNo.1 ※
【新ジャンル】



※2009年発泡酒課税出荷数量

※ 2005年「その他の雑酒②」、
2006年～2009年「その他の醸造酒(発泡性)①」課税数量

■ キリンフリーの大ヒット

年初予定63万ケース→400万ケース超の販売達成
幅広い層から支持集め2009年を代表するヒット商品に



●メルシャン *Mercian*



キリンビール・キリンマーチャндаイジングとの連携による価値提案型営業の更なる推進

内食化傾向



家庭用市場向けデイリーワイン販売好調



生活防衛意識



業務用・中高級価格帯商品に影響

●オセアニア ライオンネイサン

- 順調なプレミアムビールへの商品構成シフト
- ジェイボーグアンドサン社連結寄与あり
(詳細はスライド16参照)



●中国

経済発展で先行する沿岸部での景気悪化、ビール
業界大手各社の拡販で競争激化

2009年度 セグメント・事業各社ハイライト

飲料・食品

●キリンビバレッジ **キリンビバレッジ**

主力ブランド中心にブランド価値向上の取組み推進

【 FIRE 】

8月で発売10周年
商品ラインアップ強化



【 午後の紅茶 】

新商品やリニューアル
新たな価値提案



収益構造改革の推進：粘り強いコスト削減の実施

- 水・緑茶カテゴリー：景気悪化による生活防衛意識の影響大

【 タイ・ベトナム 】

市場ニーズを捉えた新商品発売

海外

【 中国 】

総合飲料グループ戦略推進に向けた体制づくり促進。「麒麟(中国)投資有限公司」が飲料事業におけるアライアンスの幅を広げるため、「上海錦江麒麟飲食品有限公司」に資本参加

●キリン協和フーズ **キリン協和フーズ株式会社**

4月1日発足

(キリンフードテック(株)と協和発酵フーズ(株)統合)
発酵関連技術を生かした食品素材提案・提供の加速

●ナショナルフーズ

- 生乳価格の落ち着きから収益改善進む
- デアリーファーマーズ社との統合作業順調に進む
(詳細はスライド16 参照)



医薬

●協和発酵キリン **KYOWA KIRIN**

主力製品が好調な販売達成

新薬候補品開発の順調な進展

- 国内で「ネスプ」適応追加申請
- KW-0761(抗体医薬) 血液がん対象の国内 フェーズⅡ 開始

その他



協和発酵バイオ



協和発酵ケミカル

バイオ

世界的景気悪化・為替の影響あり

化学品

需要・製品市況が回復し4Q黒字化

2010年度 業績予想

2010年度 業績予想(連結)

- ・豪州飲料・食品事業の9ヶ月決算の影響はあるが、キャッシュベースで二桁増益を目指す
(のれん等償却前営業利益、EBITDA)
- ・国内酒類・飲料事業における増益、KHK化学品事業の好転

(億円)		2009年度 実績	2010年度 連結業績予想	前年比 (%)	2012年 中計目標	2015年 目標水準
売上高	酒税抜き	19,187	18,600	▲3.1	21,300	25,000
	酒税込み	22,784	22,200	▲2.6	—	—
営業利益	のれん等償却前	1,577	1,750	+11.0	2,310	—
	のれん等償却後	1,284	1,330	+3.6	1,880	2,500
経常利益		1,446	1,250	▲13.6	—	—
当期純利益		491	480	▲2.4	—	—
営業利益率 (酒税抜き) (%)	のれん等償却前	8.2	9.4	+1.2	10.8	—
	のれん等償却後	6.7	7.2	+0.5	8.8	10%以上
EBITDA		2,128	2,800	+31.6	3,410	—
ROE(のれん等償却前)(%)		8.3	9.5	+1.2	10%以上	—

2010年 セグメント別業績予想

(+) 酒類:増収増益 (ー) ●国内での販売費減と原材料コストダウン ●豪州は現地ビジネスが好調 ●為替好転 ●ライオンネイサン100%化に伴うのれん償却の追加	(+) 飲料・食品:減収増益 (ー) ●国内:販売費減・原材料コストダウン ●豪州:販売増・現地ビジネス好調 ●為替好転 ●NFL9ヶ月決算 ●国内飲料市場の売上ダウンリスク
(+) 医薬:減収減益 (ー) ●主力製品の数量増 ●新製品の寄与 ●マイルストーン収入 ●薬価改定 ●抗体治験薬等製造設備などの稼働による減価償却費の増加	(+) その他:減収増益 (ー) ●化学品の市況回復 ●LNNF本社費用

(億円)	売上高			営業利益(のれん等償却後)		
	2009	2010	対前年(%)	2009	2010	対前年(%)
酒類	10,976	11,150	+1.6	1,028	1,050	+2.1
飲料・食品	7,350	6,720	▲8.6	70	130	+83.1
医薬	2,067	2,050	▲0.9	343	320	▲6.8
その他	2,389	2,280	▲4.6	38	60	+55.7
消去又は全社	—	—	—	▲196	▲230	—
合計	22,784	22,200	▲2.6	1,284	1,330	+3.6

セグメント・主要会社別：2010年の取組み

おいしさを笑顔に
KIRIN

酒類

●キリンビール



■ 3つの戦略課題への取組み継続 ①「定番商品強化」②「健康志向への対応強化」③「総需要拡大」

①「一番搾り」「ラガー」「のどごしく生」
「淡麗く生」の基幹ブランド強化

②「淡麗グリーンラベル」中心に
ラインアップを強化
「休む日のALC.0.00%」発売

③「キリンフリー」に続く画期的な提案
新ジャンル新商品「キリン 1000(サウザン)」

- ・ シナジー創出: グループ各社とあらゆるバリューチェーンで協働・シナジー創出
- ・ コスト構造改革推進による収益力強化: 生産拠点再編成、物流のグループ共通基盤強化、TCR活動※1等

●メルシャン

- ワイン事業に経営資源集中→収益性改善
- キリンビール社・キリンマーチャндаイジング社との一層の協働 →シナジー創出拡大

●オセアニア

ライオンネイサン ナショナルフーズ

詳細はスライド16 参照

●中国

事業展開している3拠点(長江デルタ・珠江デルタ・東北三省)の強化とともに総合飲料グループ戦略を柱とした独自のビジネスモデル確立に向けた施策を華東地区を中心に展開

セグメント・主要会社別：2010年の取組み

飲料・食品

●キリンビバレッジ **キリンビバレッジ**

国内

強いブランド創りに一層注力 ⇒ 競争力の再構築へ

注力すべきブランドへの「選択と集中」、資源配分の見直し
新たなカテゴリーへの挑戦

営業力強化

競争優位な「価値営業」の確立 / 自販機・CVSチャネルの強化

収益構造改革

あらゆるバリューチェーンにおけるコスト削減
⇒ 厳しい環境に耐え得る収益基盤の再構築へ

海外

中国：
総合飲料グループ戦略推進し収益改善図る



●キリン協和フーズ **キリン協和フーズ株式会社**

- ・価値提案型開発・営業体制の構築
- ・競争力獲得と収益力の向上
- ・メルシャン加工用酒類、発酵調味料事業の統合等、グループシナジー創出に向けた取組み



●ライオンネイサン ナショナルフーズ

詳細はスライド16 参照

●協和発酵キリン **KYOWA KIRIN**

医薬

＜営業＞

- 薬価改定が見込まれる中、
- 主力製品や新製品の販売活動強化
 - より効率的な営業体制構築

＜研究開発＞

- がん・腎・免疫疾患を重点領域
- 創薬研究機能の統合による創薬力の向上
- 抗体治験薬の新製造設備

その他

【バイオ】 協和発酵バイオ

医療・ヘルスケア領域において高付加価値アミノ酸を拡販

【化学品】 協和発酵ケミカル

環境対応型機能性製品の強化
⇒ 景気変動に左右されにくい事業構造の構築へ

おいしさを笑顔に

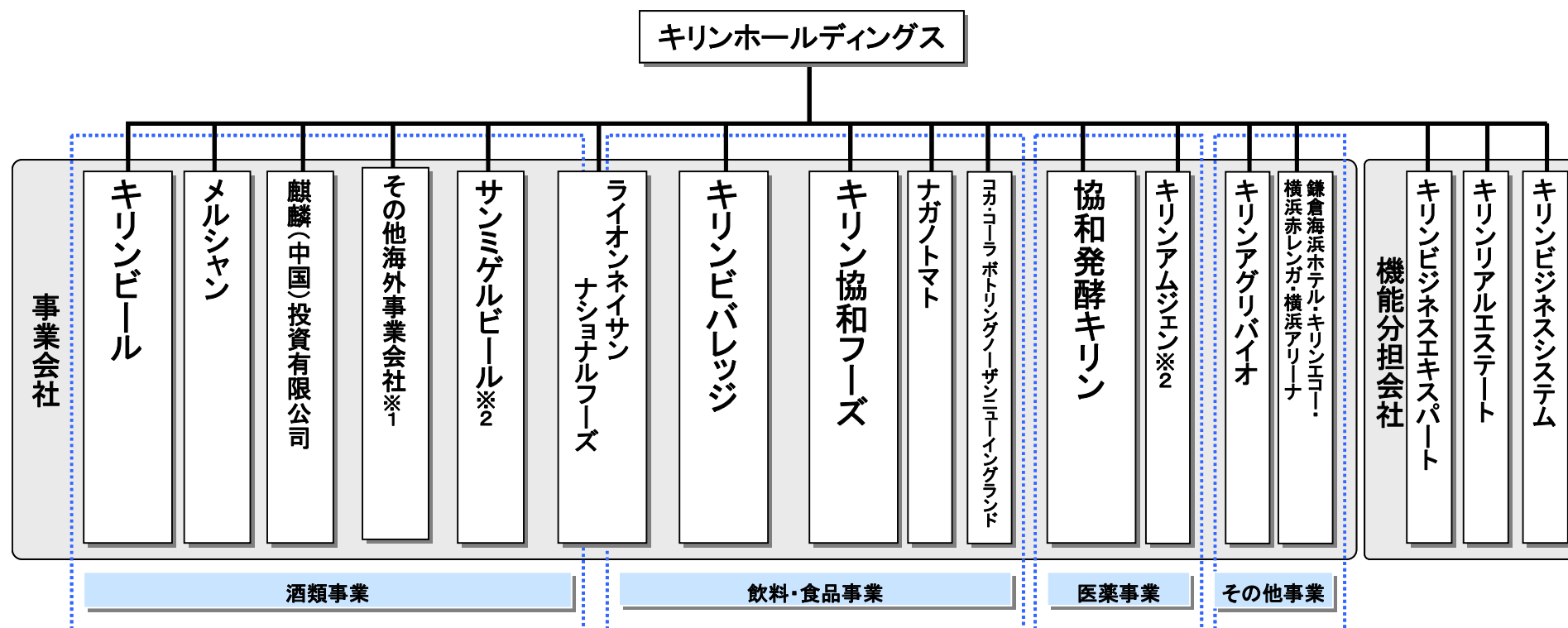
KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

**This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation
or offer to buy or sell securities or related financial instruments.**

參考資料

グループ組織図(2010年2月時点)



※1 キリン フルワリー オフ アメリカ、キリン ヨーロッパ、フォアローゼス デイステイラリー、東山農産加工、台湾麒麟啤酒有限公司
 ※2 持分法適用会社

ライオンネイサン ナショナルフーズ

I. 09年実績および10年通期予想

(億円)	2009年実績	2010年通期予想
売上高	4,226*1	3,890*2
営業利益*3	297*1	243*2

*1 2009年実績は、ライオンネイサン社とナショナルフーズ社の単純合算数値

*2 NFLは決算期を12月から9月に変更。2010年度は変則決算により1-9月を取込み予定。

*3 営業利益はのれん・ブランド償却後

II. 営業利益増減 着地および見込み*3

(億円)	09/08 増減額	10/09 増減予想
酒類	▲74	▲30
飲料・食品	+27	+26*2

III. 定性情報

	2009年 概況(現地通貨ベース)	今後の注視事項
全社	・オセアニアでの総合飲料グループ戦略推進を加速すべく、統括会社LNNFを2009年10月に設立。統合100日計画が順調に推移し、新経営体制を確立。 ・厳しい経済環境の中、増収増益を達成(酒類の安定成長、DF連結効果・乳事業の回復)。	・為替 ・期待シナジーの進捗 ・各事業の自律成長
酒類	■販売増、増収増益 ・豪州が全社を牽引(コアブランドの好調、市場のプレミアム化、機能性商品への対応、Boag'sの貢献)。 ・NZも総合酒類化を推進し、厳しい経済環境下でも増益。 ・生産性向上を目指したAuckland工場(2010年稼動開始予定)への大型設備投資ほぼ完了	・ビール市場構造変動(プレミアム化、RTDからのカテゴリーシフト等) ・生産性向上によるコスト削減 ・Boag'sの更なる成長
飲料 食品	■増収増益 ・DF連結、統合シナジーの前倒し実現等が寄与。 ・引き続き厳しい経済環境下にあるものの、チーズ、ヨーグルト、ミルクの各カテゴリーでブランド力強化に向けた新商品発売等のマーケティング活動を展開(アイスコーヒー、低脂肪乳、ヨーグルトリニューアル)	・DFとの統合進捗 ・主力ブランドへの投資と長期成長に向けた新商品開発

サンミゲルビール(SMB)

I. キリン取り込み連結純利益(実績・通期予想)

(億円)	2009年 実績(※1)	2010年 通期予想(※2)
SMB	+5	+15
SMC	▲6	—

※1. SMC=2008年10月～2009年3月、SMB=2009年4月～2009年9月 ※2 2009年10月～2010年9月

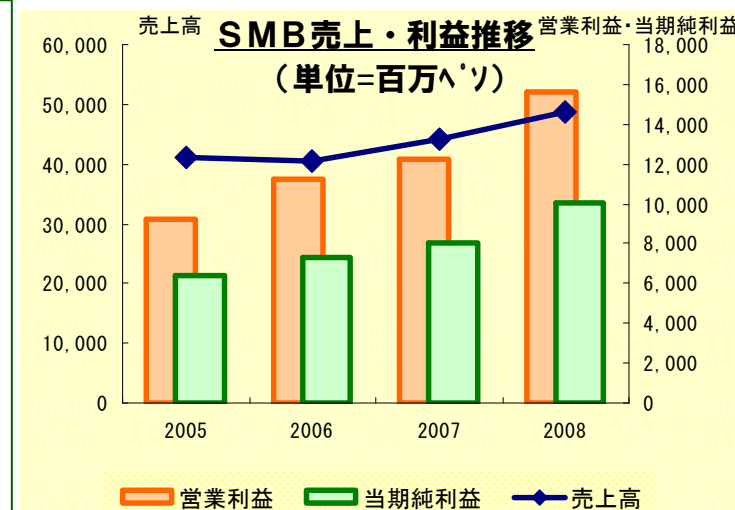
II. 市場・自社の概況と見込み

市場概況

- フィリピン国内**: ビール市場は微増ながら毎年確実な成長を遂げており、今後も2%程度の成長が見込める。
- 東南アジア**: インドネシア・タイなどSMBIL拠点のある各国ビール消費量は、年率2～5%程度の成長を続けており、今後の規模拡大が見込める。

SMB

- 国内市場における安定した成長を持続**
 - ①09年販売は前年微増で推移(12月末時点)。
 - ②推定市場シェアは95%以上であり、引き続き成長が見込める国内市場において、安定した売上利益を獲得する
- SMCが保有するSMBIL社の全株式購入契約を締結(10年1月取得完了)**:
 - ①東南アジアにおける酒類事業基盤を獲得
 - ②グローバルブランドであるサンミゲルブランドに関する海外エリアでの権利を取得
 - ③国内外のサンミゲルブランドおよび海外ローカルブランド戦略を包括推進することで、アジア市場における同社のプレゼンスアップを目指す。



※SMBは07年10月SMCよりスピンオフ。05-07年はIPOの時に公式発表(Proforma Financial Statemet)したビール事業実績より抜粋。

医薬事業: 主要抗体医薬パイプライン (2010年1月現在)

Overview of Development Pipeline			
Therapeutic Area	Preclinical	Ph I	Ph II
がん	10抗体 (8個が POTELLIGENT® 抗体, 5個が KM-Mouse 抗体)	KW-0761(CCR4) U.S. (Ph I/IIa) Japan (Ph II)	
		KRN330(A33) U.S. (Ph I/IIa)	
		BIW-8962(GM2) U.S. (Ph I/IIa)	
免疫・アレルギー		ASKP1240(CD40) ND With Astellas	
その他		KRN23(FGF23) U.S.	

● : POTELLIGENT® Technology

● : KM-Mouse Technology

2010年度 キャッシュフロー

設備投資の抑制や一歩踏み込んだ資産流動化により有利子負債返済を進め、さらなる飛躍的成長のステージへ向け、財務体質健全化を図る。

	2009(実績)	2010(予定)	備考
営業CF	1,899	2,100	グループシナジーやリーン経営の徹底による効果が発現し、2010年度は2,000億円を超えるCFを予定。
投資CF	▲3,216	▲600	2010年度設備投資は1,000億円に抑制し、資産流動化は400億円を予定。
FCF	▲1,317	1,500	
財務	1,742	▲2,000	有利子負債の返済を推進し、財務健全化を図る。

のれん等償却 2010年予定

(億円)	取得年	合計 (①+②+③)									
		小計 (①+②)							ブランド		
		投資差額			営業権				償却額 ③	未償却 残高	残年数
		償却額 ①	未償却 残高	残年数	償却額 ②	未償却 残高	残年数				
計：2006年以前発生 (A)		47			11			59	57		116
LION NATHAN LTD	1998	25	194	8	11	24	3	37	57	125	3
麒麟ビバレッジ	2006	19	308	16	-	-	-	19	-	-	-
その他		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
計：2007年以降発生 (B)		323			6			329	47		376
協和発酵麒麟・ 麒麟協和フーズ	2007	67	1,165	18	-	-	-	67	-	-	-
National Foods Limited	2007	46	1,075	18	6	154	18	53	28	648	18
J. Boag & Son Pty Limited	2008	13	95	8	-	-	-	13	4	35	8
San Miguel Brewery, Inc (持分法適用会社)	2009	59	1,104	19	-	-	-	59	13	257	19
LION NATHAN LTD. ※2009年4Qより完全子会社化	2009	136	2,591	19	-	-	-	136	-	-	-
合計 (A) + (B)		370			18			388	104		493

「のれん償却額」 小計①+②
(A) + (B) ※持分法適用会社を除く

関連：短信補足資料
参考資料

1. 損益概況 (下脚注・EBITDA)、4. 主要費用等
2. セグメント別情報

「減価償却費」に含む ブランド償却額③
(A) + (B) ※持分法適用会社を除く

関連：短信補足資料
参考資料

1. 損益概況 (下脚注・EBITDA)、4. 主要費用等
2. セグメント別情報

「のれん等償却額」 合計①+②+③
(A) ①2006年以前発生分 ※持分法適用会社を含む
(B) ②2007年以降新規投資分 ※持分法適用会社を含む

関連：参考資料

1. キリングループ連結財務指標ガイド

★為替の影響により変動します。

各社連結期間(変更のあるもの)

● 2008年

	2007年				2008年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
キリンファーマ																
協和発酵工業※																
協和発酵キリン																
ライオンネイサン																
ナショナルフーズ																
サンミゲル																

※4月-9月：キリンファーマを含む連結決算分

● 2009年

	2008年				2009年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
協和発酵キリン																
ライオンネイサン																
ナショナルフーズ																
サンミゲルビール																
サンミゲル																

※協和発酵キリン：2009年度は4-12月の9ヶ月変則決算

● 2010年

	2009年				2010年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
協和発酵キリン																
LNNF (旧LN)																
LNNF (旧NFL)																
SMB																

キリンHD決算期間

連結子会社

持分法適用会社

為替インパクト(豪ドル)

為替変動(豪ドル)が業績に与える影響(前年同期比概算)

(億円)

	2009年実績	2010年予想
連結売上高	△1,091	370
連結営業利益	△113	30
外貨建貸付*(営業外損益)	158	—

参考) 為替感応度:1円円高 2009年実績 連結売上高△55億円 / 連結営業利益△4億円
2010年予想 連結売上高△50億円 / 連結営業利益△3億円

*2009年において当社豪州連結子会社は円貨建グループローン(850mil豪ドル)を返済しておりますが、為替レート(AUS\$)の変動によって連結決算上 為替実現益を計上しています。

為替レート一覧表

(円)

P/L換算レート: 期中平均レート	2008年実績	2009年実績	2010年予想
ライオンネイサン	97.38	70.04	—
ナショナルフーズ	88.00	74.57	—
ライオンネイサン ナショナルフーズ	—	—	80.00

決算短信補足説明資料(抜粋)

2009年利益増減内容(酒類セグメント)

(億円)	2008実績	2009実績	増減	前年比(%)
連結売上高	11,815	10,976	▲839	▲7.1
連結営業利益	1,099	1,028	▲71	▲6.5

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	麒麟ビール	酒類限界利益増	50	ビール販売数量減 △68千kl △80億 発泡酒販売数量減 △85千kl △84億 新ジャンル販売数量増 108千kl 118億 RTD販売数量減 △4千kl △2億 焼酎・洋酒限界利益減 △7億 価格改定影響、品種構成による差異 他
		コストダウン	4	エネルギー削減 4億
		原材料コストダウン	3	麦芽高 △16億、包装資材価格高 △9億、澱粉安 14億、砂糖・液糖価格安 10億、ホップ価格安 3億 他
		販売費減	30	販売促進費・広告費減 12億 (ビール・発泡酒・新ジャンル 5億、RTD 11億、 焼酎・洋酒 23億 他)
		その他費用増	△73	運搬費減 18億 減価償却費増 △55億(うち耐用年数変更 △52億)他
	計		14	
	ライオンネイサン	営業利益減	△98	485億 → 387億
		のれん償却額	5	△52億 → △47億
	計	ブランド償却費	20	△74億 → △54億
			△74	
計	メルシャン		1	△0億 → 1億
	その他		△12	
			△71	H20年度実績 1,099 → H21年度実績 1,028

2009年利益増減内容(飲料・食品セグメント)

(億円)	2008実績	2009実績	増減	前年比(%)
連結売上高	7,166	7,350	+184	+2.6
連結営業利益	64	70	+6	+10.4

セグメント	会社名	要因	差異	内容
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	△157	販売数量減 △1,403万ケース
		コストダウン	20	原材料コストダウン 他
		容器構成差異等	△31	販売促進費売上控除 △37億 他
		販売費減	139	販売促進費・広告費減 116億(販売促進費売上控除 37億、新規連結の影響 △7億 他)、運搬費減 23億 他
	計	その他費用減	0	人件費増 △4億、雑費 2億、旅費交通費 2億、新規連結の影響 △7億 他
			△30	
	ナショナルフーズ	営業利益増	35	81億 → 116億
		のれん償却額	0	△68億 → △68億
		ブランド償却費	△8	△27億 → △35億
	計		27	
	その他		9	
計			6	H20年度実績 64 → H21年度実績 70

2009年利益増減内容(医薬／その他セグメント)

●医薬セグメント

(億円)	2008実績	2009実績	増減	前年比(%)
連結売上高	1,715	2,067	+352	+20.5
連結営業利益	282	343	+61	+21.8

セグメント	会社名	差異	内容
医薬	協和発酵キリン	61	売上総利益増 223億 研究開発費増 △35億 その他費用増 △113億 のれん償却額 △12億
計		61	H20年度実績 282 → H21年度実績 343

●その他セグメント

(億円)	2008実績	2009実績	増減	前年比(%)
連結売上高	2,338	2,389	+51	+2.2
連結営業利益	182	38	▲144	▲78.9

セグメント	会社名	差異	内容
その他	協和発酵キリン バイオケミカル	△35	74億 → 39億
	協和発酵キリン 化学品	△90	35億 → △55億
	その他	△19	
計		△144	H20年度実績 182 → H21年度実績 38

2009年利益増減内容(経常利益・当期純利益)

(億円)	2008実績	2009実績	増減	前年比(%)
連結経常利益	1,030	1,446	+415	+40.3
連結当期純利益	801	491	▲310	▲38.7

	要因	差異	内容
営業外損益	金融収支 持分法による投資損益 為替差損益 その他	50 △29 561 8	△164億 → △114億 サンミゲル ※3 △45億 サンミゲルビール ※3 5億 (現地持分損益43億、投資差額償却額 △29億、 ブランド償却費 △7億) キリンアムジェン △6億、旧協和発酵工業 12億(うち 過年度投資差額償却額 10億) 他 △372億 → 189億
計		590	
経常利益増		416	H20年度実績 1,030 → H21年度実績 1,446
特別損益	固定資産売却益 投資有価証券売却益 固定資産売却損 減損損失 関係会社株式売却損 投資有価証券評価損 投資有価証券売却損 持分変動利益 収用等補償金 その他	△29 323 △16 △352 △216 △24 △14 △726 △95 2	過年度旧協和発酵工業株式交換
計		△1147	
法人税等及 び少数株主 利益	法人税等 少数株主利益	394 26	
計		421	
当期純利益減		△310	H20年度実績 801 → H21年度実績 491

貸借対照表の主要増減内容

(億円)	2008年実績	2009年実績	増減	前年比(%)
資産	26,196	28,611	+2,415	+9.2
負債	14,696	16,623	+1,926	+13.1
純資産	11,499	11,988	+488	4.2

	平成20年度 末	平成21年度 末	増減	内容
(資産の部)				
流動資産				
受取手形及び売掛金	4,466	4,238	△227	・売上高の減少 他
固定資産				
機械装置及び運搬具	2,178	2,035	△143	・連結子会社の減損処理による減少 他
土地	2,442	2,276	△166	・連結子会社の減損処理による減少 他
建設仮勘定	572	752	179	・連結子会社の設備投資による増加 他
のれん	3,439	6,052	2,612	・豪州連結子会社の完全子会社化による増加 他
無形固定資産その他	1,054	1,294	239	・豪州連結子会社の為替影響による増加 他
投資有価証券	4,253	3,886	△367	・連結子会社における投資有価証券売却による減少 他
(負債の部)				
流動負債				
支払手形及び買掛金	1,895	1,699	△196	・仕入高の減少 他
短期借入金	1,191	2,594	1,402	・キリンホールディングスの増加 他
1年内償還予定の社債	441	125	△315	・キリンホールディングスの社債償還による減少
固定負債				
社債	2,428	3,249	820	・キリンホールディングスの社債発行による増加 他
長期借入金	2,577	3,005	428	・キリンホールディングスの増加 他
(純資産の部)				
その他有価証券評価差額金	374	182	△191	・連結子会社における投資有価証券売却による減少 他
為替換算調整勘定	△887	△343	543	・円安による増加 他

2010年利益増減内容 通期予想（酒類セグメント）

（億円）	2009年実績	2010年通期予想	増減	前年比（%）
連結売上高	10,976	11,150	+174	+1.6
連結営業利益	1,028	1,050	+22	+2.1

会社名	要因	差異	内容
キリンビール	酒類限界利益増	0	ビール販売数量減 △44千kl △54億 発泡酒販売数量減 △69千kl △70億 新ジャンル販売数量増 106千kl 117億 RTD販売数量減 △1千kl 0億 焼酎・洋酒限界利益減 △7億 品種構成による差異 他
	原材料コストダウン	22	砂糖・液糖安、麦芽価格安、包装資材価格安、大麦高 他
	販売費減	31	販売促進費・広告費減 31億 他
	その他費用増	△32	減価償却費減 6億、マネジメントフィ等増 △41億 他
計		21	
ライオンネイサン ナショナルフーズ		△30	284億 → 254億
その他		31	マネジメントフィ等の変動 他
計		22	H21年度実績 1,028 → H22年度予想 1,050

2010年利益増減内容 通期予想（飲料・食品セグメント）

（億円）	2009年実績	2010年通期予想	増減	前年比（%）
連結売上高	7,350	6,720	▲630	▲8.6
連結営業利益	70	130	+60	+85.7

会社名	要因	差異	内容
キリンビバレッジ	数量差異 コストダウン 容器構成差異等 販売費減 その他費用増	9 10 △16 40 △31	販売数量増 88万ケース 原材料コストダウン 他 販売促進費売上控除 △15億 他 販売促進費・広告費減 30億 （販売促進費売上控除 15億 他）、運搬費減 10億 販売機器費増 △7億、研究開発費増 △4億、 情報システム費増 △4億、人件費増 △2億、 修繕費増 △1億、減価償却費減 4億 マネジメントフィ等増 △12億 他
計		12	
ライオン・ネイサン・ナショナルフーズ		26	13億 → 39億
その他		22	マネジメントフィ等の変動 他
計		60	H21年度実績 70 → H22年度予想 130

2010年利益増減内容 通期予想（医薬／その他セグメント）

●医薬セグメント

（億円）	2009年実績	2010年通期予想	増減	前年比（%）
連結売上高	2,067	2,050	▲17	▲0.8
連結営業利益	343	320	▲23	▲6.7

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	△23	売上総利益減 △17億 研究開発費減 2億 その他費用増 △8億
計	△23	H21年度実績 343 → H22年度予想 320

●その他セグメント

（億円）	2009年実績	2010年通期予想	増減	前年比（%）
連結売上高	2,389	2,280	▲109	▲4.6
連結営業利益	38	60	+22	+57.9

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	1	39億 → 40億
協和発酵キリン 化学品	85	△55億 → 30億
その他	△64	ライオンネイサン ナショナルフーズ本社費用 他
計	22	H21年度実績 38 → H22年度予想 60

2010年利益増減内容 通期予想（経常利益・当期純利益）

（億円）	2009年実績	2010年通期予想	増減	前年比（％）
連結経常利益	1,446	1,250	▲196	▲13.6
連結当期純利益	491	480	▲11	▲2.4

	要因	差異	内容
営業外損益	金融収支	△61	△114億 → △175億 サンミゲルビール ※3 9億
	持分法による投資損益	0	（現地持分損益 45億、投資差額償却額 △30億、 ブランド償却費 △6億）他
	為替差損益	△189	
	その他	8	
計		△242	
経常利益減		△196	H21年度実績 1,446 → H22年度予想 1,250
特別損益	投資有価証券売却益	△346	
	減損損失	388	
	投資有価証券評価損	83	
	関係会社株式売却損	216	
	その他	129	
計		470	
法人税等及び少数株主利益	法人税等	△275	
	少数株主利益	△10	
計		△285	
当期純利益減		△11	H21年度実績 491 → H22年度予想 480

医薬:パイプライン (2010年1月現在)

(Ph II以上)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん 血液	KW-0761	Ph II	米国 Ph I / II a	悪性腫瘍 (血液がん)	注射	自社	ヒト化抗体 (がん領域以外の全疾患について日本・中国・韓国・台湾を除く 全世界における独占的開発/販売権を米国Amgen社へ08年3月 に導出)
	KRN321 ネスプ	申請中 2008/11		★がん化学療法による貧血	注射	Kirin- Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として07年7月より発売中
	AMG531	Ph III		血小板減少症 (免疫性血小板減少性紫斑 病)	注射	Kirin- Amgen	血小板増殖刺激因子製剤 (契約に基づき開発はアムジェン・デベロップメント(株)が実施)
	KW-2246	Ph III		がん性疼痛	舌下錠	Orexo	
	KRN125	Ph II		好中球減少症	注射	Kirin- Amgen	持続型G-CSF製剤
腎臓	PB94 フォスブロック/レナジェ ル		中国申請中 2008/6	高リン血症	経口	中外 製薬	本邦:発売中
	KRN321 ネスプ	申請中 2008/12		★腎性貧血 (透析施行前)	注射	Kirin- Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として07年7月より発売中
			中国 Ph II	★腎性貧血 (透析施行中)			
免疫 アレルギー	KW-4679 アレロック		中国申請中 2008/7	アレルギー	経口	自社	本邦:発売中
	Z-206 アサコール	Ph III		炎症性腸疾患 (クローン病)	経口腸 溶製剤	ゼリア 新薬	ゼリア新薬と共同開発

医薬:パイプライン (2010年1月現在)

(Ph II以上)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or 導入	備考
		日本	海外				
中枢 神経系	KW-6002	Ph III	米国申請中 2007/4	パーキンソン病	経口	自社	
	KW-6500	Ph III		パーキンソン病	注射	Britannia Pharma	

(Ph I)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社 or 導入	備考
		日本	海外				
がん 血液	KW-2450		米国Ph I	悪性腫瘍	経口	自社	
	KRN654	Ph I / II		血小板増多症	経口	Shire	
	KW-2449		米国 Ph I / II a	悪性腫瘍	経口	自社	
	KW-2478		欧州Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	
	ARQ197	Ph I		悪性腫瘍	経口	ArQule	
	KRN330		米国 Ph I / II a	悪性腫瘍	注射	自社	完全ヒト抗体
	BIW-8962		米国 Ph I / II a	悪性腫瘍	注射	自社	ヒト化抗体
	KRN951	Ph I		悪性腫瘍	経口	自社	

医薬：パイプライン (2010年1月現在)

(Ph I)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社 or 導入	備考
		日本	海外				
免疫 アレルギー	ASKP1240		Ph I	臓器移植時の 拒絶反応	注射	自社	完全ヒト抗体 アステラス製薬と共同開発
その他	KW-3357	Ph I	欧州Ph I	汎発性血管内凝固症候群、 先天性アンチトロンビン欠乏 に基づく血栓形成傾向	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンピン製剤
	KRN23		米国Ph I	低リン血症性くる病	注射	自社	完全ヒト抗体

【上記以外のパイプライン】

フィリピンにおいてフィルグラスチム(G-CSF製剤)の承認申請を行っています。

タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピンにおいてネスプ(持続型赤血球造血刺激因子製剤)の承認申請を行っています。韓国、台湾、香港においては承認を取得しました。

韓国、台湾においてレグパラ(二次性副甲状腺機能亢進症治療剤)の承認申請を行っています。香港(マカオ)においては許可を取得しました。

(中止品目)

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社 or 導入	備考
		日本	海外				
免疫 アレルギー	NU206		豪州Ph I	炎症性腸疾患	注射	ARCA biopharma (旧Nuvelo)	ポートフォリオ見直し
がん 血液	AGS-003		米国・カナダ Ph II	腎細胞がん	注射	Argos	ポートフォリオ見直し
	AGS-004		米国・カナダ Ph II	HIV	注射	Argos	ポートフォリオ見直し